

西東京市多文化共生推進指針策定に向けた アンケート調査概要（案）

調査の目的

西東京市における多文化共生推進指針策定に向け、西東京市の外国人住民の実態やニーズを把握する。

アンケート調査

（1）対象者

18 歳以上の外国人住民 1,000 人

（2）実施方法

・市住民基本台帳より男女及び年齢の比率が同数となるように無作為抽出

・郵送による配布、郵送又は WEB による回答・回収

※やさしい日本語のアンケートのみ郵送し、同封の案内にて多言語対応（英語・中国語・韓国語）
の WEB 回答を多言語で案内する

問	項目	設問意図
1 あなたのことについて（回答者属性）		
1-1	性別	
1-2	年齢	
1-3	国籍	
1-4	使用言語	
1-5	住所（町別）	
1-6	在留資格	
1-7	仕事	
1-8	居住年数（日本）	
1-9	居住年数（西東京市）	
1-10	同居人	
1-11	市の暮らしについて良いところ	
1-12	継続居住の意思	
2 多文化共生について（日本人と外国人が理解し合う社会をつくるために）		
2-1	多文化共生の実現に向けて個人ができること	共生社会の先駆けとなりそうなもののピックアップ
2-2	多文化共生の実現に向けて市がより充実させるべきこと	共生社会の先駆けとなりそうなもののピックアップ
2-3	活動やイベント等への参加状況	活動やイベント等への参加状況の把握
2-4	活動やイベント等の活動場所	活動場所の把握により、外国人住民が足を運ぶ市内施設の把握
2-5	参加してみたい活動やイベント等について	活動への意欲関心、ニーズの把握
2-6	2-5で回答した活動やイベント等について参加しない理由	参加してみたい活動について、参加の壁となっている事由の把握
2-7	地域で活かせる得意なこと・できること	共生社会の先駆けとなりそうなものの把握
2-8	市が実施しているサービスの利用状況	サポート体制の利用状況の把握
2-9	西東京市多文化共生センターの認知度	外国人住民の中での認知度を確認
2-10	市の多文化共生センターに求めるもの	センターのニーズ把握
2-11	多文化キッズサロンの認知度	外国人住民の中での認知度を確認
2-12	外国人の子どもが住みやすいまちにするために市がより充実させるべきこと	共生社会の先駆けとなりそうなもののピックアップ
3 日本語の学習について（日本語学習への意欲関心、日本語教室の充実に向けた情報収集など）		
3-1	日本語能力について	読み書きや日常会話等、外国人住民の日本語能力の把握
3-2	日本語の勉強方法	日本語学習に対する意欲・関心
3-3	日本語を学んでいない理由	日本語学習の壁となっている事由の把握
3-4	日本語を学べる場を探す条件	日本語学習の場に求められるニーズの把握
4 情報の入手方法について（日常生活の中での情報提供、災害時の情報提供など）		
4-1	市で生活するうえで必要な情報	情報ニーズの把握

問	項目	設問意図
4-2	困っている時の相談者	相談する相手の優先順位・相談相手がいない人の把握、相談所の認知度把握
4-3	情報の入手方法	情報源の把握
4-4	情報入手入手の際の言語	情報入手の際の言語の把握
4-5	やさしい日本語の認知度	外国人住民の中での認知度を確認
4-6	やさしい日本語での情報提供	外国人住民の中の「やさしい日本語」のニーズの把握
4-7	災害時に不安に思うこと	情報提供時に活かせるよう災害時のニーズの把握
4-8	災害時の情報収集方法	どのような情報提供があればよいか災害時の情報源の確認
4-9	新型コロナウィルス感染症の感染拡大時に困ったこと	感染症感染拡大時に活かせるよう感染症感染拡大時のニーズの把握
5 地域の交流について（交流の有無やコミュニティの把握、地域交流の課題など）		
5-1	日本人との交流	日本人との関り方の把握
5-2	日本人と交流することへの課題	日本人と付き合うことについて外国人住民が感じている課題の把握
5-3	日常の交流状況	コミュニティやグループの実態把握
5-4	生活の中で外国人という理由で嫌な思いをしたこと	外国人であることで嫌な思いをした経験があるか確認
5-5	5-4について、どのような時の経験か	嫌な経験について実態の把握
5-6	5-4・5-5の回答について、どのような経験か	嫌な経験について実態の把握（自由記載）
6 その他		
6-1	日本での生活満足度	日本での生活満足度を把握
6-2	多文化共生についての意見など	自由意見欄